2023 年度上野千鶴子基金助成金最終報告書

1. 助成対象事業	SDGs の諸課題解決に向けた活動
2. 事業の区分	一般プロジェクト
3. 氏名/団体名	「日本における第二次世界大戦の長期的影響に関する学際的シンポジウム」実行委員会
4. 事業名	日本における第二次世界大戦の長期的影響に関する学際的シンポジウム
5. 助成額	
6. 事業実施期間	2023 年 9 月 1 日～2025 年 8 月 31 日

7. 事業の目的

本シンポジウムは、第二次世界大戦が個人や社会に及ぼした長期的な影響を明らかにすることを目的としている。実行委員は日本とオーストラリアの研究者によって組織され、かつ精神医学・臨床心理学・歴史学・社会学・文化人類学・宗教学など様々な分野の研究者が関わる国際的・学際的な取り組みである。（1）個人レベルでのトラウマだけでなく、日本社会の集合レベルでの「文化的トラウマ」について議論すること、（2）日本の戦争経験を加害と被害の両側面から多角的に明らかにすることを目指している。今回の事業では、2023 年度のシンポジウム及び来年度以降の準備に向けた対面の研究会開催を行った。

8. 実施内容

（1）2023 年度は「文化的トラウマとコミュニティ」をテーマとして、3 回のシンポジウムをオンラインで行った。詳細は別途提出したプログラムの通り（肩書きは開催当時のもの）

（2）シンポジウム実行委員メンバー5 名でオーストラリアを訪問し、来年度の戦後 80 年シンポジウムに向けて、オーストラリアでの戦争関連施設の訪問や現地研究者との交流を行った。

①2024 年 8 月 28 日に、首都キャンベラにあるオーストラリア退役軍人局管轄の戦没兵士の追悼・博物施設「国立戦争記念館（War Memorial)」を訪問し、戦史部門の長である Karl James 氏と会見し、近年の戦没兵士を巡る国家的・社会的状況について意見交換を行った（通訳：田村恵子氏)。

②メルボルン大学アジア研究所が開催する Inagaki Seminar on Japan で、本シンポジウム実行委員のオイゲン・コウ、竹島正、中村江里が、連続シンポジウムの概要や日本における戦争トラウマ、戦争とメンタルヘルスの研究についての紹介を行った。概要は以下の通りである。

・テーマ：The Legacy of Japan’s Traumatic Experiences of the Second World War
・日時：2024 年 8 月 30 日（金）14:00－15:30
・会場：Room 321, Level 3, Sidney Myer Asia Centre, Building 158, The University of Melbourne, Parkville VIC 3010

Eugen Koh (Psychiatrist and psychoanalytic psychotherapist, Senior Fellow, Centre for Mental Health and Community Well-being, Melbourne School of Population and Global Health, University of Melbourne)

Tadashi Takeshima (Director of the Kawasaki City Inclusive Rehabilitation Center)

“The Impact of the Second World War on Suicide in Japan”
Eri Nakamura (Associate professor at Sophia University)
“War in the Postwar Family”

また、シンポジウム終了後に、本シンポジウム実行委員メンバー（オイゲン・コウ、竹島正、中村江里、森茂起、粟津賢太、松永健聖）と、メルボルン大学アジアインスティチュート教授の小川晃弘氏、オーストラリア国立大学名誉上級講師の田村恵子氏とともに、来年度のメルボルン大学でのシンポジウム開催についてのミーティングを行った。

9. 事業の成果と自己評価

2023 年度の 3 回のオンラインシンポジウム及びメルボルン大学でのセミナーの総参加者数は 302 名（うちオンラインが 277 名）であった。シンポジウムの参加者は 2021 年の開始から一貫して増加を続けており、このテーマが様々な研究領域やメディア、市民の中で関心を集めていることを実感している。今回はオーストラリアで初めての対面のセミナーを開催し、オンラインとあわせて 40 名弱の参加者であったが、質疑応答も活発に行われ、海外での関心も高いことを実感できた。

来年度以降も本シンポジウムは継続予定であるが、とりわけ来年は戦後 80 年の節目となるため、日本だけでなくオーストラリアでも対面のシンポジウムを開催することを計画している。今回のオーストラリア訪問を通じて、現地の研究者とのネットワークを構築し、来年度に向けた具体的な計画を立てることができた。

10. 成果物

①「日本における第二次世界大戦の長期的影響に関する学際シンポジウム」2023 概要（全 3 回）
②上記シンポジウム各報告者及びコメンテーターの画像データ（10 枚）
③War Memorial でのミーティングの画像データ（1 枚）
④メルボルン大学セミナー案内
⑤メルボルン大学セミナー報告者及び会場の画像データ（3 枚）